



社の字を図案化した社協のマークです。

# 社協だより

発行・編集  
社会福祉法人 鎌倉市社会福祉協議会  
〒248-0012 鎌倉市御成町20-21  
TEL.0467(23)1075  
FAX.0467(22)2213

ホームページをご覧ください

鎌倉社協 検索

公式 facebook

鎌倉社協

第43回

## 神奈川県福祉作文コンクール受賞のお知らせ



「おもいやりのや、たすけあいの心を育み」  
もに生きる福祉社会」の実現を目指して昭和52  
年から始められた「神奈川県福祉作文コンク  
ル」(主催：社会福祉法人神奈川県共同募金会・  
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会)。第43  
回目となる今回は神奈川県内の小・中学校合  
わせて282校8,861編の作文が寄せられ、そ  
の中から鎌倉市立大船中学校3年生の吉岡建輝  
(よしおかたつき)さんが準優秀賞を受賞されま  
した。

「多くの作文コンクールがあったと思いますが、  
なぜ福祉作文を選んだのですか？」  
元々周囲に高齢者の方が多く、福祉や介護と  
いうことが身近でした。またケアマネージャーを  
やっていた祖母をはじめ、身内に福祉に携わる人  
がいて介護や福祉の話を知っているうちに自分  
なりに考えることがありました。

「あなた達の作文で、特に同世代の若い人たちに  
伝えたいと思うことや感じてほしいと思うこと  
は何ですか？」  
少しでも地域の高齢者の方や自分の祖父母と  
ふれあえる機会があればいいと思います。孫やひ  
孫が会いに来ると喜んでいたので。  
これからますます高齢化社会が進むにつれて

「何が大切になってくると思いますか？」

表彰式で他の方の作文紹介でも述べたこと  
ですが、介護という言葉にはマイナスのイメ  
ジがあります。より、私達若い人たちが子ども  
たちから関わりを持ち、時に支え合うようにする  
ことが大切だと思います。

「社協や、福祉の仕事に携わる人々に「今後やっ  
てほしい」と思っていることはありますか？」  
人によって幸せの感じ方はそれぞれだと思  
いますけど、高齢者など福祉の当事者が「暮らすこ  
とが大変にならない」ようにしてほしいと思いま  
す。

このように作文やインタビューから、吉岡さん  
は「ふれあうこと」「関わりを持つこと」が相手  
を「幸せにする」ことのひとつだと考えていま  
す。これは資格や介護経験のない若い人たちが  
子どもたちにもできる「介護」のひとつの姿では  
ないでしょうか。

## 幸せな介護

鎌倉市立大船中学校3年 吉岡 建輝さん

私の曾祖母は、亡くなる3年前ごろから寝たきりになってし  
まいましたが、家で最期を迎えることができました。寝たきり  
になる前は、九十歳を超えていても、とても元気で、自慢の曾  
祖母でした。寝たきりになった後は、週に何度か介護ヘルパー  
さんにきてもらったりしていましたが、主に曾祖母の介護をし  
ていたのは、今年、七十六歳になる祖母でした。いわゆる「老々  
介護」です。

老々介護は、高齢化社会で健康寿命が延びることによる  
問題で、七十歳の子供が九十歳の親を介護する、というように  
老人が老人を介護することからこのように言われています。  
今後この老々介護は、もっと増えていくと言われています。  
祖母は、長年ケアマネージャーをしていました。祖母自身、  
既に七十歳を超えていたので、曾祖母の介護を行うのは、体力  
的にもとても大変なものでした。また、親子で介護すると、家族  
に対する甘えが出るなど、理由は様々ですが、親が子供に介護  
されることをなかなか受け入れられない場合も出てきます。  
私の曾祖母の場合は、ヘルパーさんの言うことは素直に従  
うのに、実の娘である祖母に対しては文句や喧嘩ばかりで、祖  
母は介護にとても苦労していました。

ケアマネージャーの祖母なら、家での介護は苦勞すること  
も分かっていたはずなので、老人ホームなどを利用すること  
もできたのではないかと思います。それなのに、なぜ、家で介護  
することを選んだのか、とても疑問でした。

曾祖母が亡くなる半年前ぐらいのこと、私は学校の課題で、  
祖母に仕事について聞く機会がありました。ケアマネージャー  
としての仕事内容などを聞いた後に、祖母は、介護の根本は介  
護される人が最後まで「幸せ」に過ごせるようにすることだか  
ら、と言っていました。私は、今まで介護とは、介護される人が  
「快適」に過ごせるようにするためのことだと思っていたしま  
したが、実際に介護の仕事を経験して祖母の考え方は違  
いました。入所した老人ホームがどれだけ快適であったとして  
も、その人が自分の家で余生を過ごしたいと思っていたら、た  
とえ不便でも家で介護されることが、その人にとって「番良い  
介護」だと祖母は言っていました。介護する側が「番良い」と思  
う選択でも、それが介護される側の「番良い」になるとは限り  
ません。

ただし、私の祖母のように、自宅で介護をするというのは、  
家族の了解や覚悟も必要です。実際に介護する人の体調や、  
自宅が介護できるだけの設備やスペースがあるかなど、様々な  
条件がそろわないとできないので、なかなか難しい決断です。  
なので、必ずしも介護される人の望む「幸せ」な介護ができる  
とは限らないこともあります。

しかし「幸せにする」と言っているだけなら、私のような孫や  
曾孫にできることもあるのではないかと思います。介護そのも  
のは手伝えないとしても、私たちが顔を見て短い時間でも  
一緒に話をすることなども、相手を「幸せ」にする行動だと思  
います。そうすると、これも広い意味で言えば「介護」の二つにな  
るのかもしれない、と思いました。

私は、どんな介護の方法でも、できるだけ介護される人の気  
持ちに寄り添って、介護する人もされる人も「幸せ」になれる  
方法を見つけていくことが必要だと、この出来事を通して感じ  
ました。これから先、社会の中に「誰もが最後まで幸せでいら  
れる」介護が、もっと広まっていって欲しいと思います。

## 池田整形外科

内科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科  
電話 0467-25-6116 FAX 0467-25-6946

	月	火	水	木	金	土	日
整形外科	○	○	○	○	○	○	—
内科	○	○	○	○	○	○	—
泌尿器科	○	○	×	○	○	○	—
皮膚科	○	○	○	○	○	○	—
麻酔科	○	×	○	×	○	○	—

AM 9:00~12:00  
PM 平日 2:00~6:00  
土曜 2:00~5:00  
江ノ電和田塚駅より30秒 駐車場8台

にんにく注射  
(自費¥1,100~)  
やっております。



Benesse

## ベネッセの 有料老人ホーム

見学・入居相談 受付中!  
資料請求も受付中!

0120-17-1165  
受付時間 9:00~18:00 (土・日・祝日含む毎日)

